

平成24年7月23日

保護者様

仙台市立吉成小学校
校長 菊地 博

仙台市標準学力検査の結果（概要）について

1 仙台市標準学力検査について

仙台市標準学力検査は、以下の2点を目標とし、小学校3年～中学3年生を対象に、全市一斉に実施しているものです。今年度の実施教科は、3年生が国語と算数の2教科、4年～6年生が国語、社会、算数、理科の4教科です。生活・学習状況調査は2年～6年生で実施いたしました。問題の内容は、前学年での学習内容となっています。

- (1) 「目標値」及び「市の状況」との関係において、本校における学力向上の取組の成果と課題を分析し、今後の学習指導の工夫・改善に生かす。
- (2) 児童一人一人の学力の定着状況を把握し、今後の指導に生かすとともに、きめ細やかな指導の充実を図る。

2 本校における検査結果の概要について

本校における検査結果（学年別正答率）は、図1のとおりです。

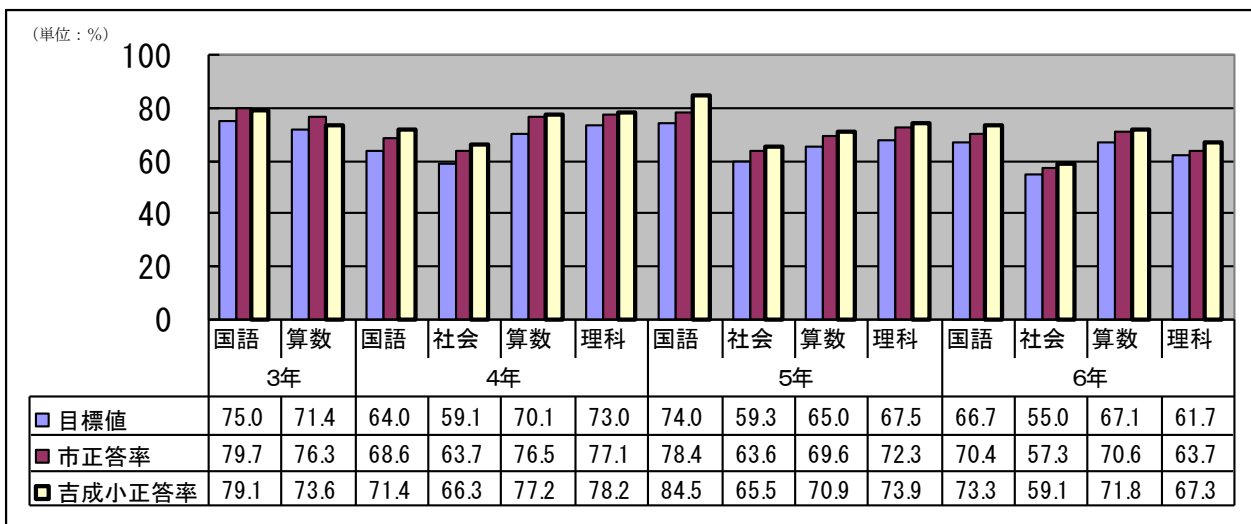


図1 標準学力検査の目標値、仙台市全体での正答率、吉成小学校での学年別正答率の比較

全学年全教科で、「目標値」を上回る結果となっています。国語では、4年生以上の学年で目標値を5ポイント以上上回っています。特に、5年生の国語では、目標値を10ポイント以上上回りました。

理科においても、どの学年でも目標値を5ポイント以上上回っています。どの学年においても、学習内容の定着状況は良好であると言えます。

3 国語科・問題別の正答率について

(1) 第3学年の正答率

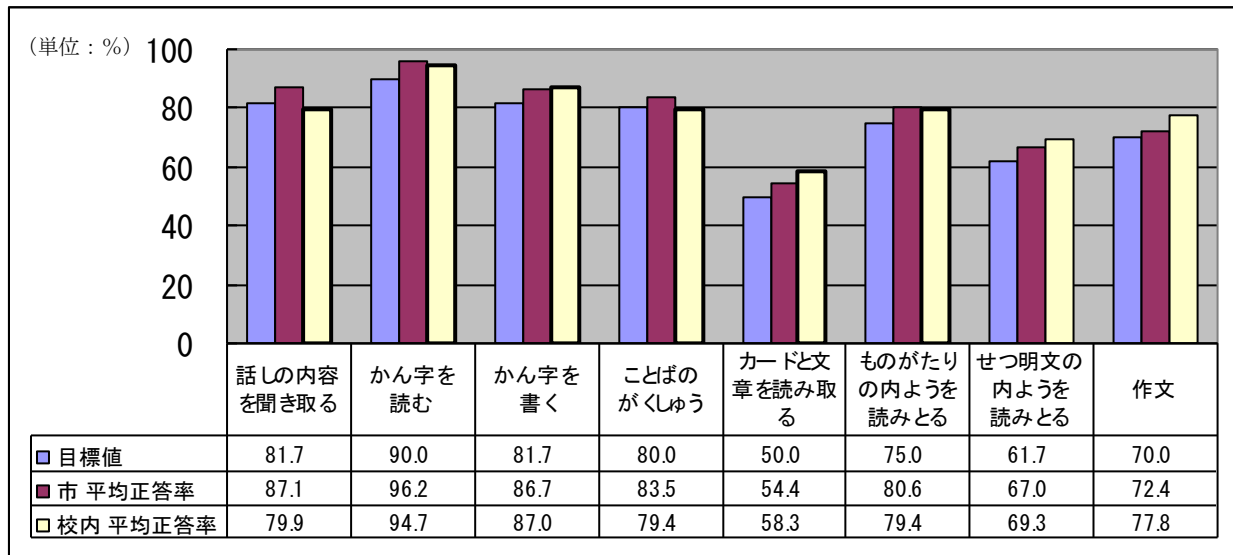


図2 第3学年国語の問題別正答率

「話の内容を聞き取る」「ことばのがくしゅう」を除いて、目標値を上回っています。特に、「カードと文章を読み取る」「説明文の内容を読み取る」「かん字を書く」「作文」は、目標値を5ポイント以上上回っています。

「話の内容を読み取る」は、目標値を1.8ポイント下回りました。大事なことを落とさないようにしながら興味をもって聞くことや、話の中心に気をつけて聞くことが課題となります。

(2) 第4学年の正答率

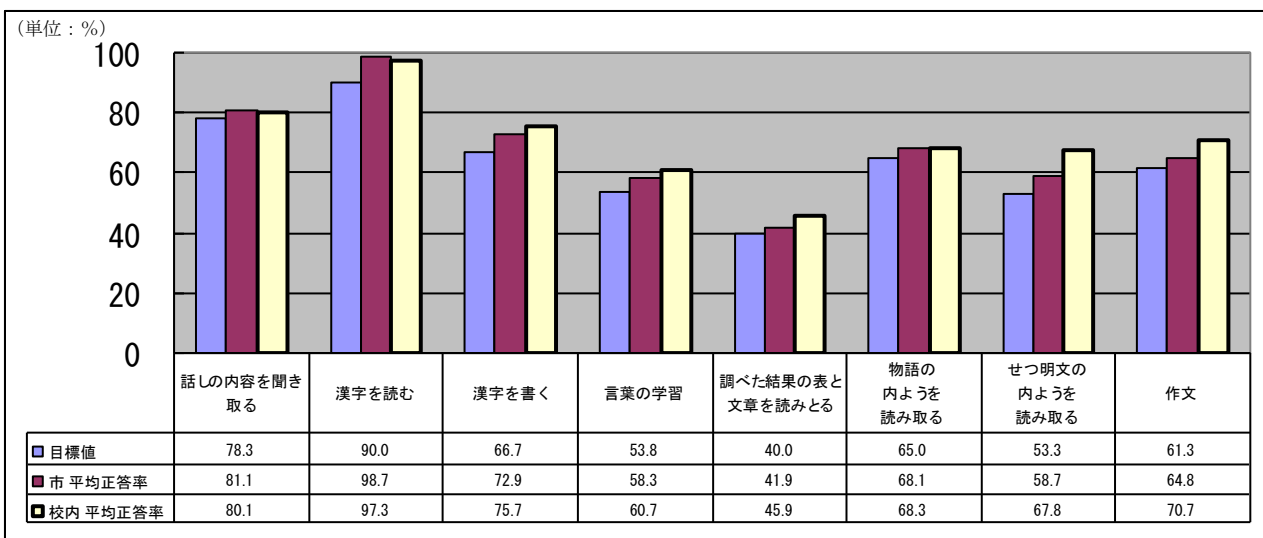


図3 第4学年国語の問題別正答率

ほとんどの問題で目標値を上回っています。特に、「せつ明文の内容を読み取る」は10ポイント以上上回っています。どの領域の問題についても、定着状況はとても良好であるといえます。

(3) 第5学年の正答率

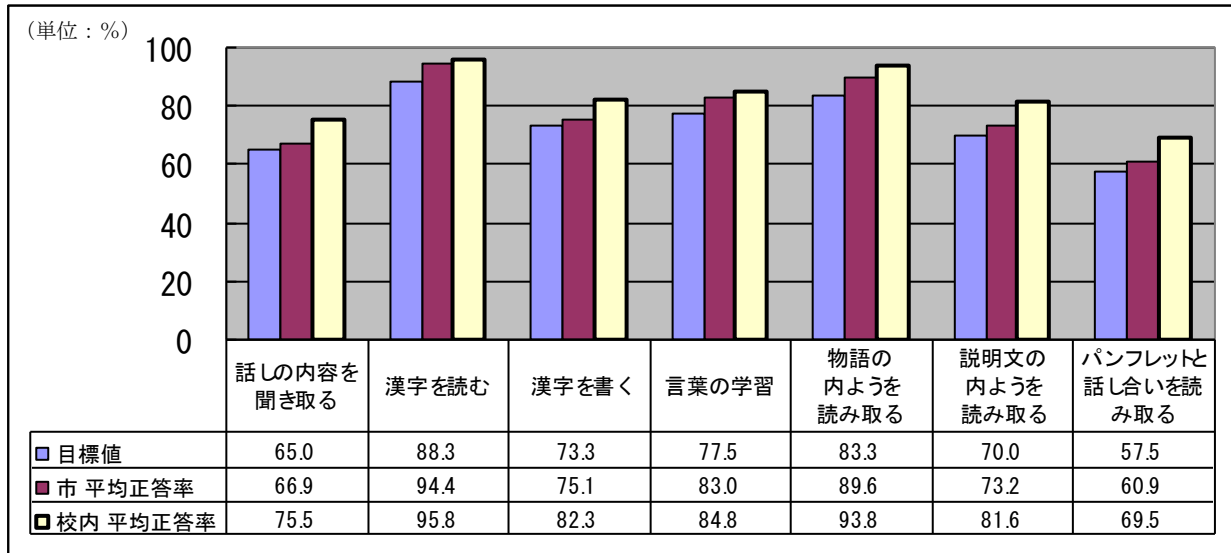


図4 第5学年国語の問題別正答率

どの問題領域でも目標値を上回り、ほとんどの領域の問題で、目標値を10ポイント以上上回っています。定着状況はとても良好であるといえます。

(4) 第6学年の正答率

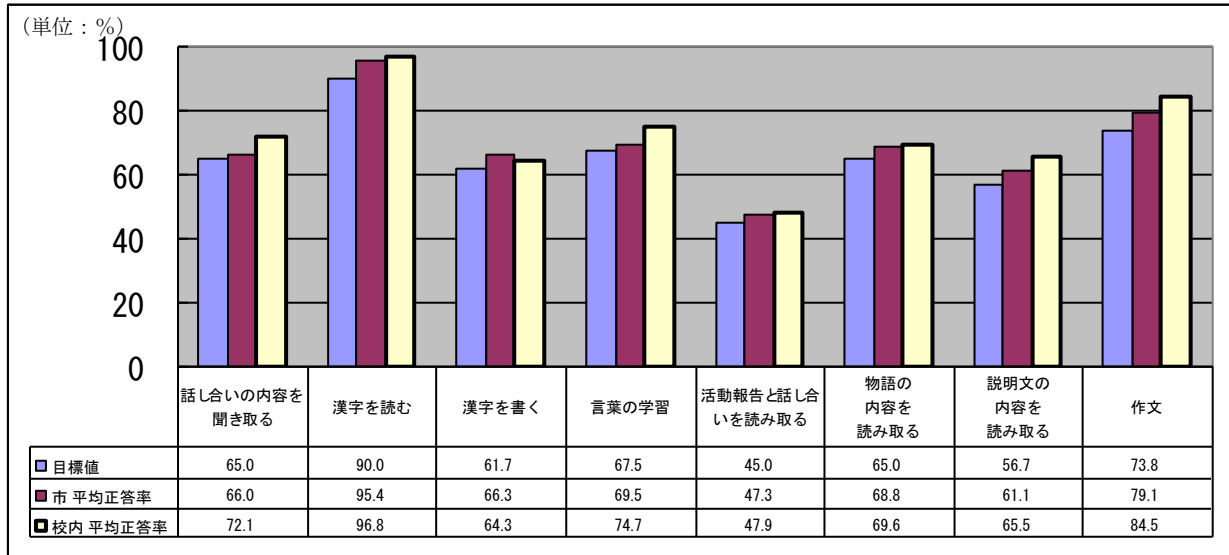


図5 第6学年国語の問題別正答率

ほとんどの問題で目標値を上回っています。特に、「作文」は目標値を10ポイント以上上回っています。どの領域の問題についても、定着状況はとても良好であるといえます。

4 社会科・問題別の正答率について

(1) 第4学年の正答率

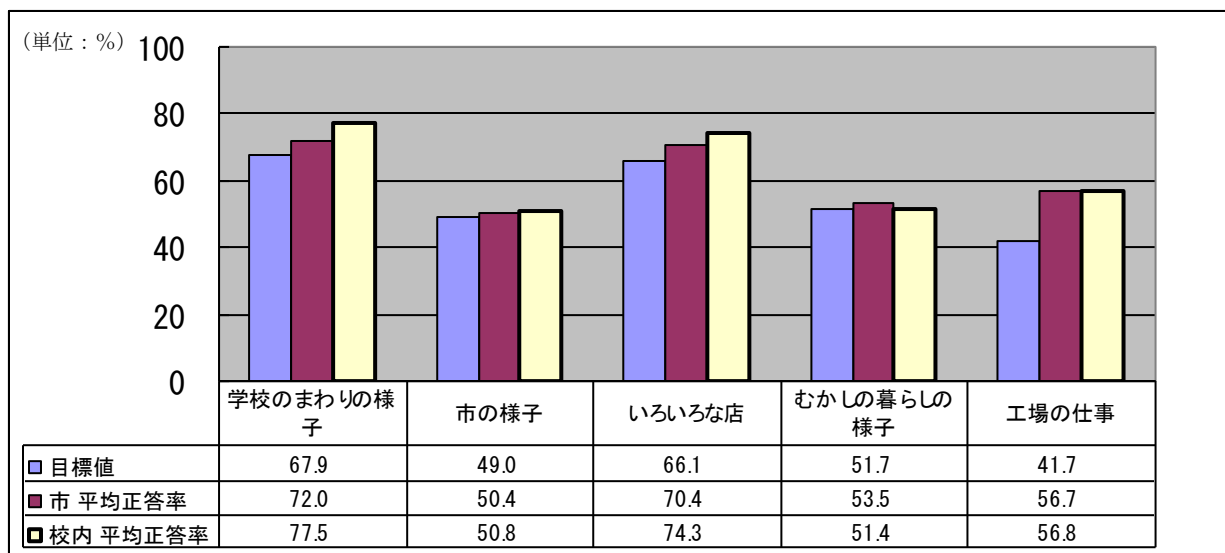


図6 第4学年社会科の問題別正答率

ほとんどの問題領域で目標値を上回り、「工場の仕事」では、10ポイント以上上回っています。

ただし、「むかしの暮らしの様子」は、目標値を0.3ポイント下回りました。地域の人々の生活の移り変わりや文化財、年中行事及び地域の発展につくした先人の働き等を調べたりまとめたりすることが課題です。

(2) 第5学年の正答率

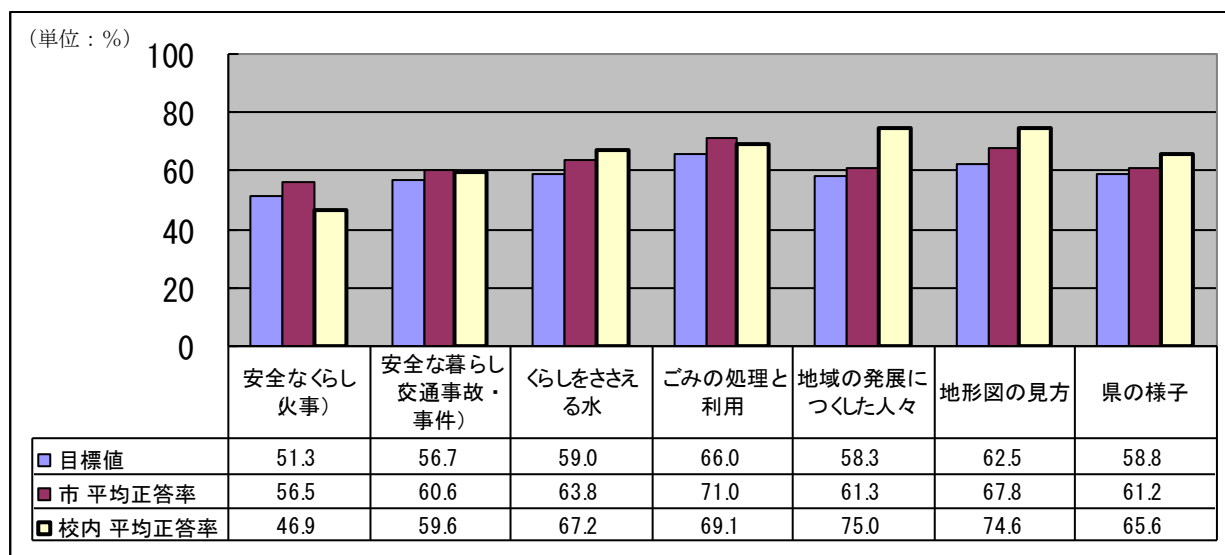


図7 第5学年社会科の問題別正答率

ほとんどの問題で、目標値を上回り、「地域の発展につくした人々」「地図の見方」の問題では、目標値を10ポイント以上上回っています。

ただし、「安全な暮らし」では、目標値を4.4ポイント下回りました。地域の人々の安全を守るための関係機関や諸活動について調べたりまとめたりすることが課題になります。

(3) 第6学年の正答率

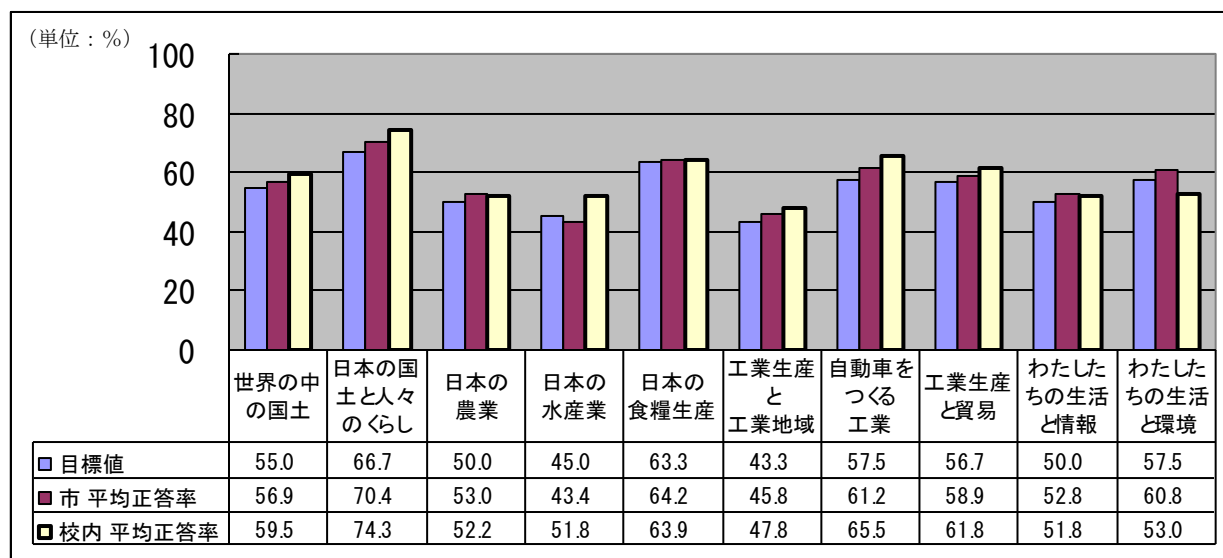


図8 第6学年社会科の問題別正答率

ほとんどの問題で、目標値を上回っています。ただ、「わたしたちの生活と環境」は目標値を4.5ポイント下回りました。公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さを理解することが課題となります。

5 算数科・問題別の正答率について

(1) 第3学年の正答率

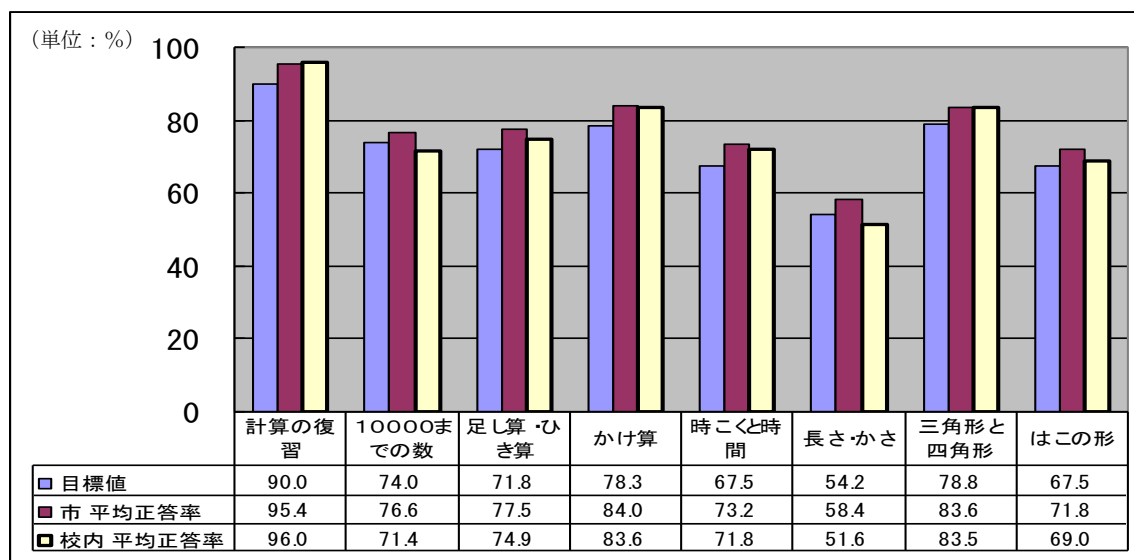


図9 第3学年算数の問題別正答率

ほとんどの問題領域で目標値を上回っています。ただし、「10000までの数」「長さ・かさ」では、目標値を2.6ポイント下回っています。十進位取り記数法による数の表し方や、長さや体積の単位を身の回りのことと関連付けながら習得していくことが課題となります。

(2) 第4学年の正答率

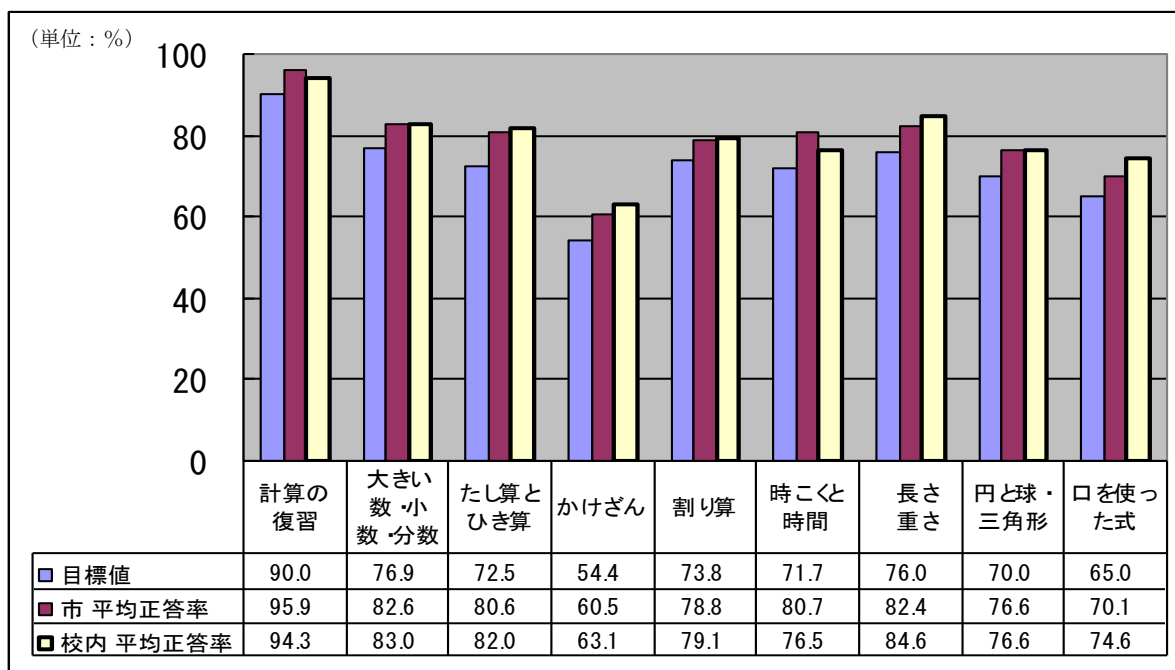


図10 第4学年算数の問題別正答率

どの問題領域においても目標値を上回っています。どの領域の問題についても、定着状況はとても良好であるといえます。

(2) 第5学年の正答率

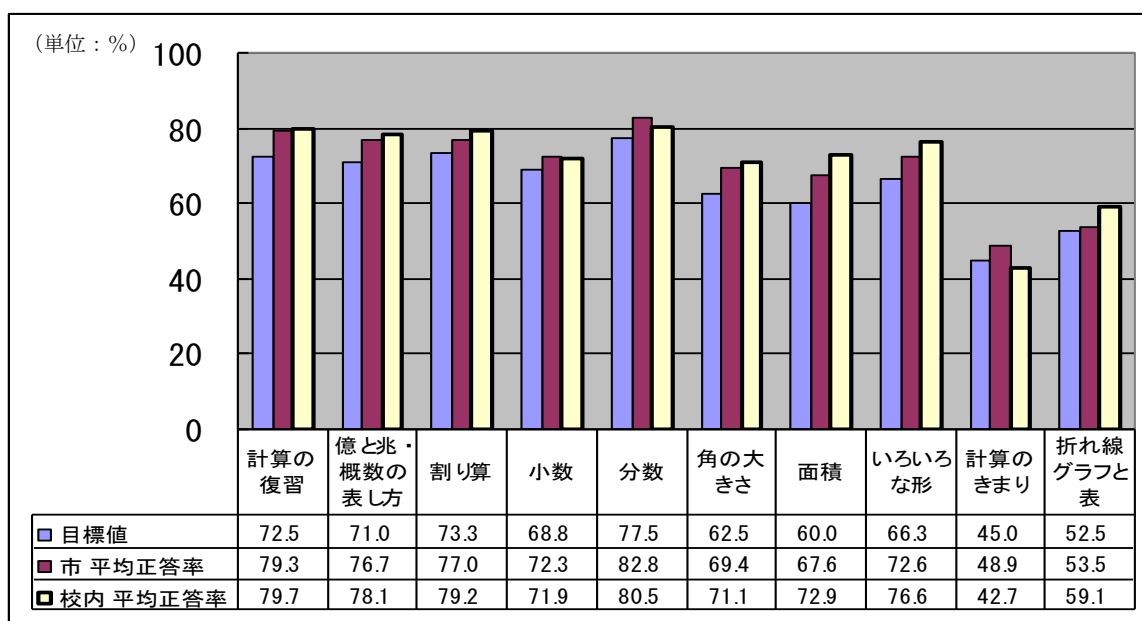


図11 第5学年算数の問題別正答率

ほとんどの問題で、目標値を上回り、「面積」「いろいろな形」の問題では、目標値を10ポイント以上上回っています。

ただし、「計算のきまり」では、目標値を2.3ポイント下回っており、計算をするときのきまりを確実にすることが課題となります。

(2) 第6学年の正答率

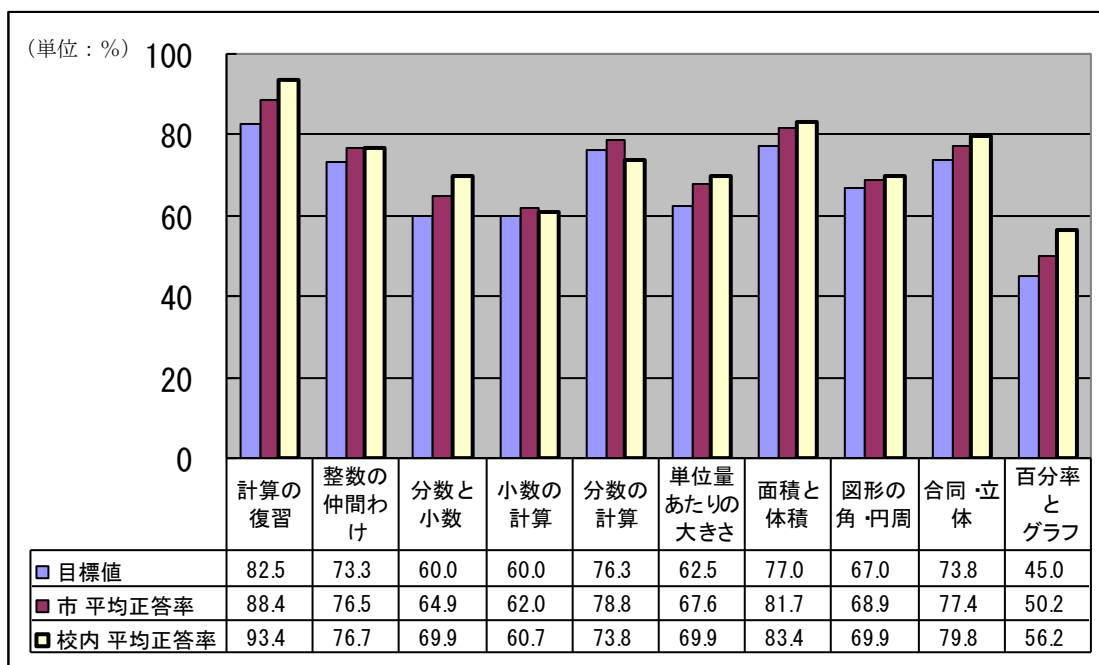


図12 第5学年算数の問題別正答率

ほとんどの問題で、目標値を上回っています。特に、「計算の復習」「百分率とグラフ」では、目標値を10ポイント以上上回っています。ただし、分数の計算は目標値を2.3ポイント下回りました。異分母の四則計算、通分・約分についての習熟が課題となります。

5 理科・問題別の正答率について

(1) 第4学年の正答率

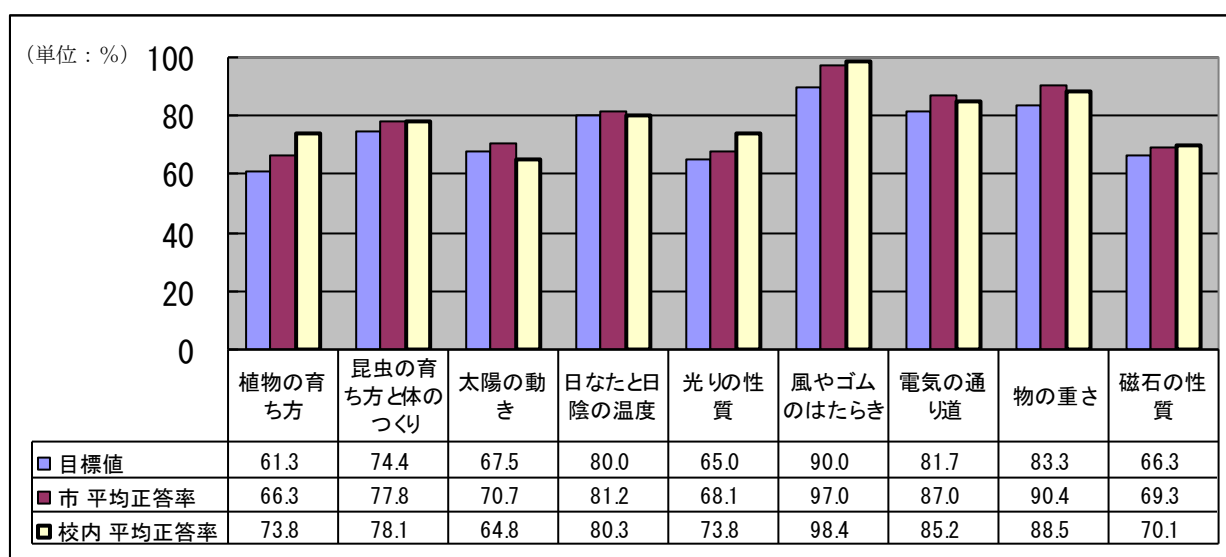


図13 第4学年理科の問題別正答率

ほとんどの問題で、目標値を上回っています。特に、「植物の育ち方」では10ポイント以上上回っています。ただし、「太陽の動き」については2.7ポイント下回りました。太陽の観察を通して太陽の動きをしっかりと理解していくことが課題となります。

(2) 第5学年の正答率

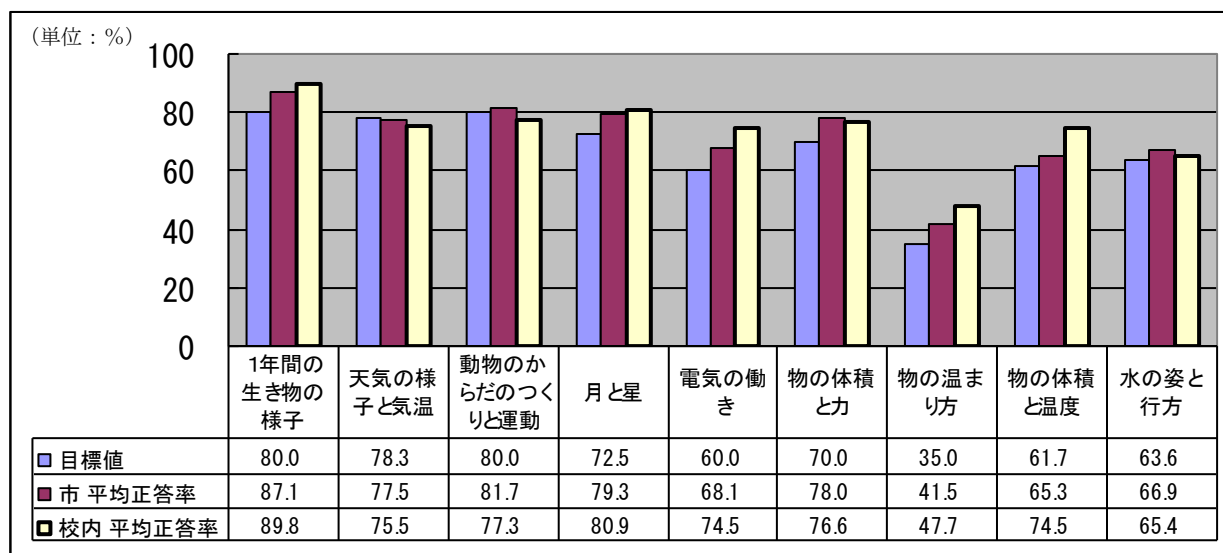


図 14 第5学年理科の問題別正答率

ほとんどの問題で、目標値を上回っています。特に、「電気の働き」「ものの温まり方」「ものの体積と温度」では、10ポイント以上上回っています。ただし、「天気の様子と気温」「動物のからだのつくりと運動」については2.8ポイント下回りました。天気の変化に興味・関心を持ち、テレビや新聞、インターネットを活用しながら天気と気温の関係について知るとともに、動物の誕生や成長について推論しながら追及していく力を身に付けることが課題になります。

(3) 第6学年の正答率

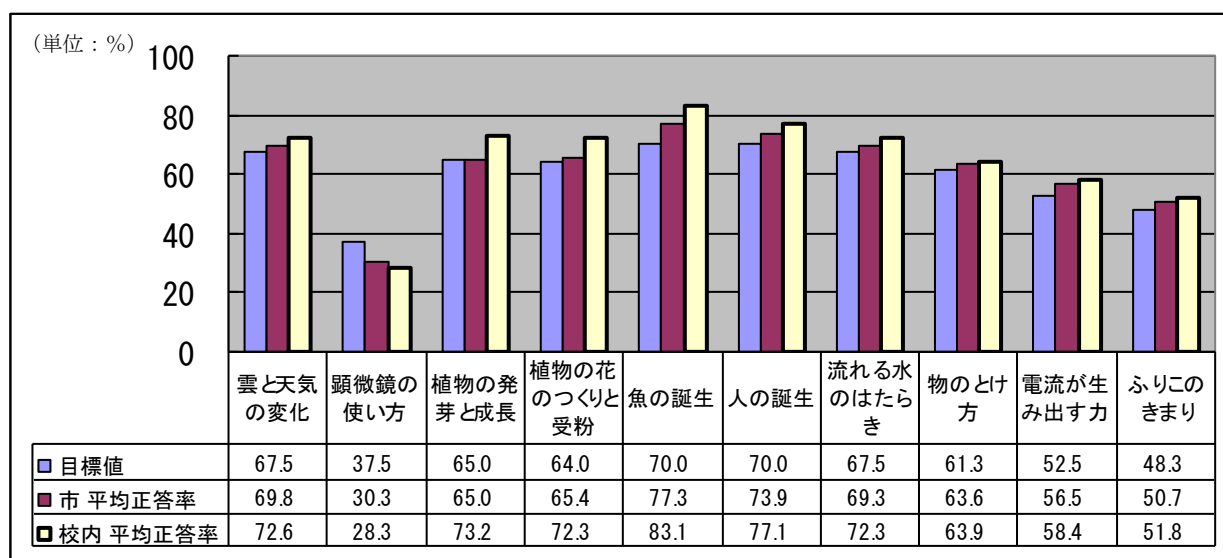


図 15 第6学年理科の問題別正答率

ほとんどの問題で、目標値を上回っています。特に、「魚の誕生」では、10ポイント以上上回っています。ただし、「顕微鏡の使い方」は9.2ポイント目標値を下回りました。顕微鏡の各部の名称や使い方等について理解することが課題となります。

5 標準学力検査の結果を踏まえた今後の取組について

今回の結果から、本校児童の学力の定着状況は、おおむね良好であることが分かりました。ただし、この結果は、「標準学力検査」という一つの尺度で見たときの結果であり、本校が目指している「広い意味での学力＝確かな学力」の全てについての結果を得たわけではありません。

目標値よりも高いから「十分である」とは考えずに、「分かる・魅力ある授業づくり」を一層進めるため、指導方法の工夫・改善を図っていきます。具体的には、以下のことについて、力を入れて取り組んでいきます。

● 「あたたかくかかわり合う子どもの育成」をめざして校内研究の充実を図ります。

昨年度に引き続き、教科学習の定着状況が概ね良好なことから、ペーパーテストでは測定しにくい「考える力」や「コミュニケーション活動」とおした「表現」や「交流」など、一段質の高い学びを目指します。

特に、「たくましく生きる力育成プログラム」の授業と教科学習の関連を考慮しながら、教師自身が学び合い、授業力を高めることができるよう努めていきます。

● 教科学習の魅力を高める指導方法の工夫・改善を行います。

学習の動機付けや意欲といった観点からも、学習の魅力を高める工夫に努めます。具体的には、高学年教科担任制の導入による授業改善。理科支援員・学力サポートコーディネータ（理科）の活用による、観察・実験の充実などです。

また、大学との連携も図りながら、授業研究や研修を深め、魅力的な授業を展開することができるように努めます。

● 個に応じた指導の充実を図ります。

学習面での課題は一人一人異なることから、今後一層、個に応じた指導の充実を図ります。今回の学力テストの結果も生かしながら、一人一人の学習状況を的確に把握し、きめ細やかな指導ができるよう努めていきます。

特に、校内正答率が目標値を下回った問題については、意図的に授業の中で復習の機会を設け、確実に定着するように指導していきます。

また、5、6年については、算数科における少人数指導について、指導形態や指導方法に工夫を加えて充実を図っていきます。

● 「総合的な学習の時間」「自分づくり教育」との関連を強化します。

教科学習で身に付けた学力を、総合的、実践的に様々な分野で生かすことができるように、教科学習の内容と「総合的な学習の時間」「自分づくり教育」の指導内容を意図的・計画的に関連させていきます。

特に、今年度は、学校支援地域本部の支援を受けながら、外部機関との連携を進めます。様々な人との出会い、現実の社会での動きなどに応じた実践の場を確保しながら、指導方法の工夫・改善を図っていきます。